2019 年度さくらねこ無料不妊手術事業

多頭飼育救済（行政枠・団体枠）アンケート　集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分の減少に寄与する活動です。
2019 年度は 2,510 名の個人（一般枠）、19 団体、118 の行政と協働し、約 3 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

1. アンケート概要

2019　年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に多頭飼育崩壊現場への不妊手術支援を申請し、事業を完了した協働ボランティア（行政枠および団体枠）に事後調査アンケートを実施しました。

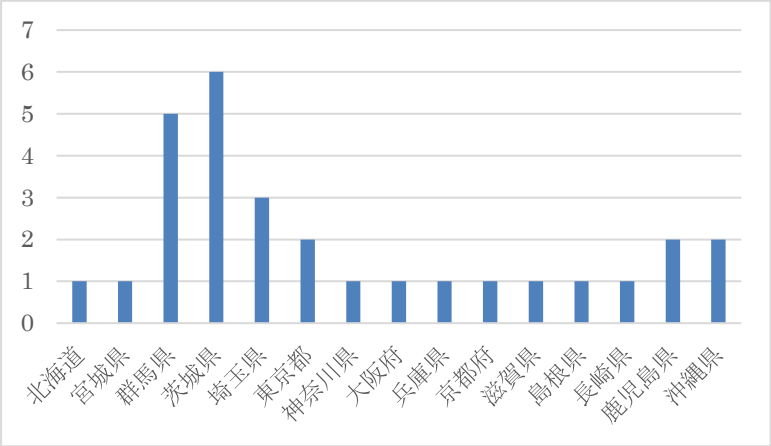
行政枠とは：行政（地方公共団体）および準ずる団体
公園管理事務局等、行政が管理する施設の管理者や、大学等教育機関も行政枠の対象
団体枠とは：行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会
団体枠登録対象者
団体枠 A＝【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介されること、相談者に対応することに同意した団体
団体枠　B＝学校法人、自治会連合会、自治会（チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る）
※地方公共団体が運営している施設（公園等）の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

- 2019 年度さくらねこ無料不妊手術　多頭飼育救済実施数　29 件
- アンケート有効回答数 29 件

2. 都道府県別件数

昨年度に引き続き、茨城県が 6 件で最多でした。

群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県と関東圏が多く、全体の約 6 割を占めています。



3. 申請組織の種別

申請組織の種別は	票数	%
行政枠	23	79%
団体枠	6	21%

多頭飼育救済を申請した行政の担当部署	票数	%
環境・衛生系（主に犬猫の問題を担当）	18	78%
福祉系（生活保護など人間の問題を担当）	5	22%

昨年度と比べて、行政からの申請が 11 件→23 件と倍増しています。多頭飼育救済において行政が果たす役割は小さくありません。主体的に取り組む行政が増えてきたことは成果の 1 つと言えるでしょう。
申請した行政の担当部署を見てみると、環境・衛生系が 78%でした。多頭飼育崩壊は、当事者が生活上の問題を抱えることが多く、福祉系部署の関わりをどのように増やしていくかが課題です。

4. 配布チケット数について

2019 年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	2	7%
11～20	8	28%
21～30	11	38%
31～50	5	17%
51～70	1	3%
71 以上	2	7%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	13	44.8%
80～99%	8	27.6%
60～79%	6	20.7%
40～59%	1	3.4%
20～39%	0	0%
0～19%	1	3.4%

約 45%の団体が 100%の使用率、約 93%の団体が 60%以上の使用率でした。

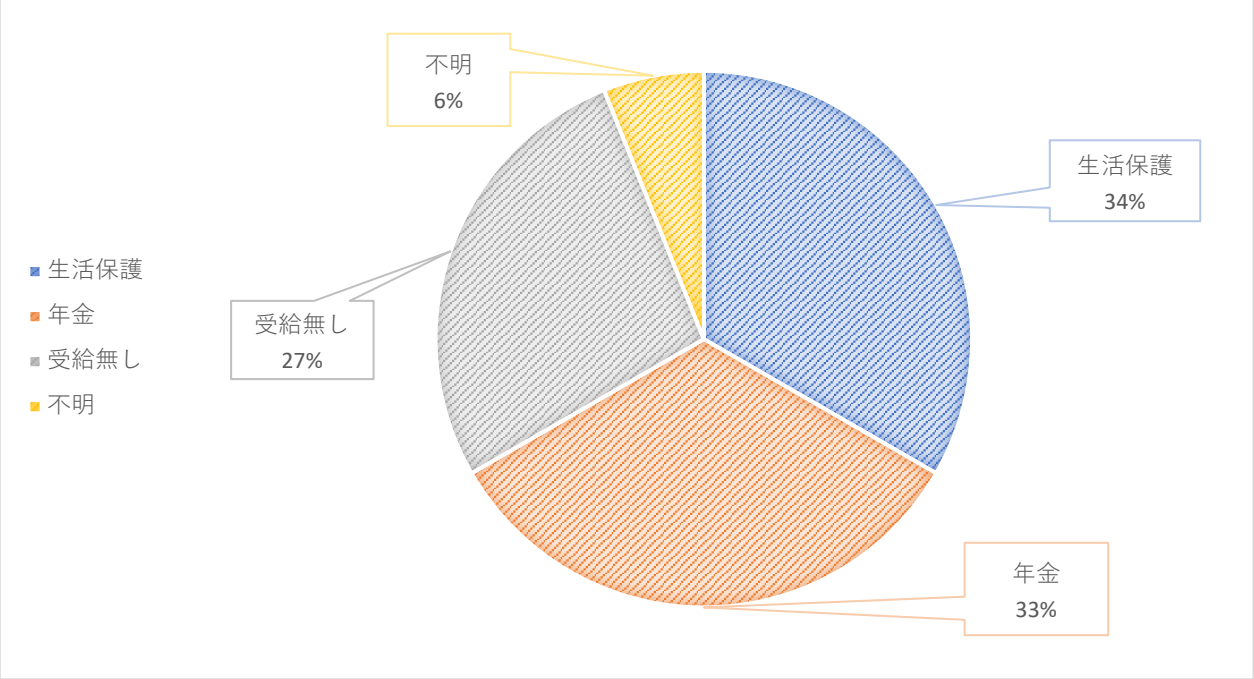
5. 多頭飼育状態に陥った原因

多頭飼育状態に陥った原因	票数	%
室内で繁殖を繰り返して増えた	22	76%
無計画にノラネコなどを保護したりする収集家タイプ（アニマルホーダー）	6	21%
その他	1	3%

その他は、不妊手術をせずに猫が屋内外を自由に出入りして繁殖したため、というものでした。

6. 多頭飼い現場当事者の社会保障等の受給状況

社会保障等の需給状況（複数回答）	票数	%
生活保護	11	34%
年金	11	33%
受給無し	9	27%
不明	2	6%



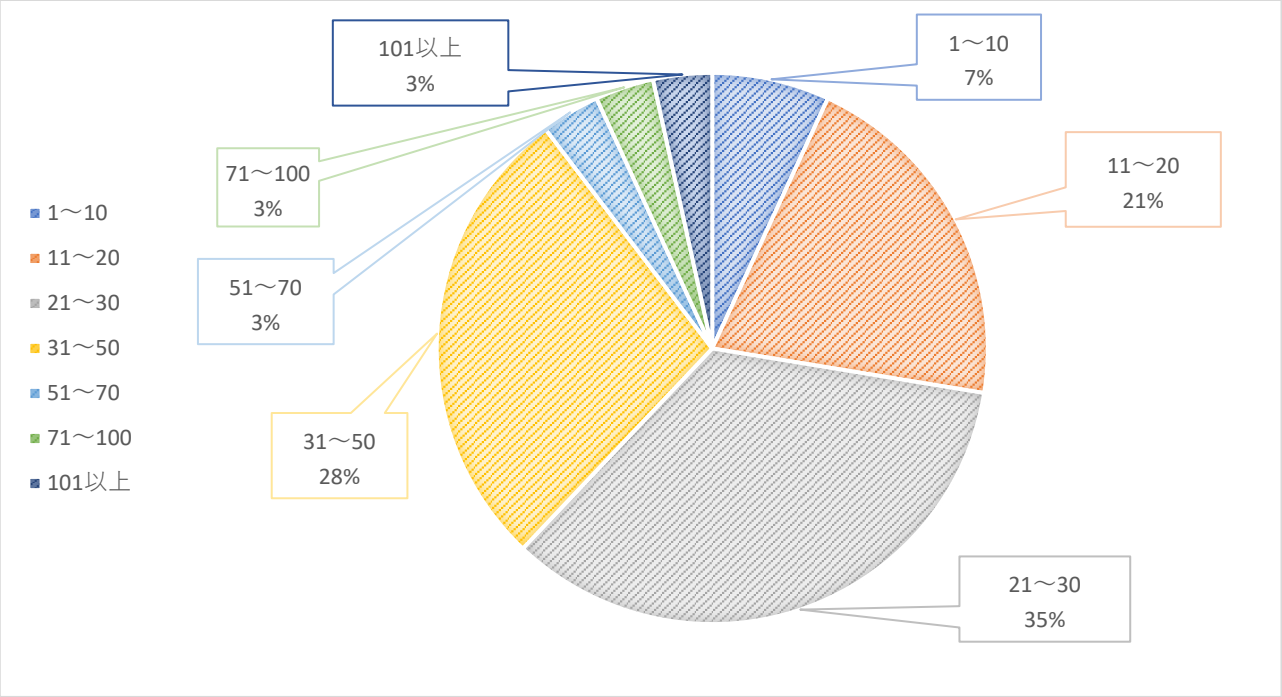
当事者の 34%が生活保護受給者でした。多頭飼育状態に陥る前段階で、生活保護担当者（ケースワーカー）の介入が望まれます。

7. 対象猫の飼育状況

対象猫は	票数	%
完全室内飼育	14	48%
室内と外を出入りしている	15	52%

8. 手術前の猫の総数

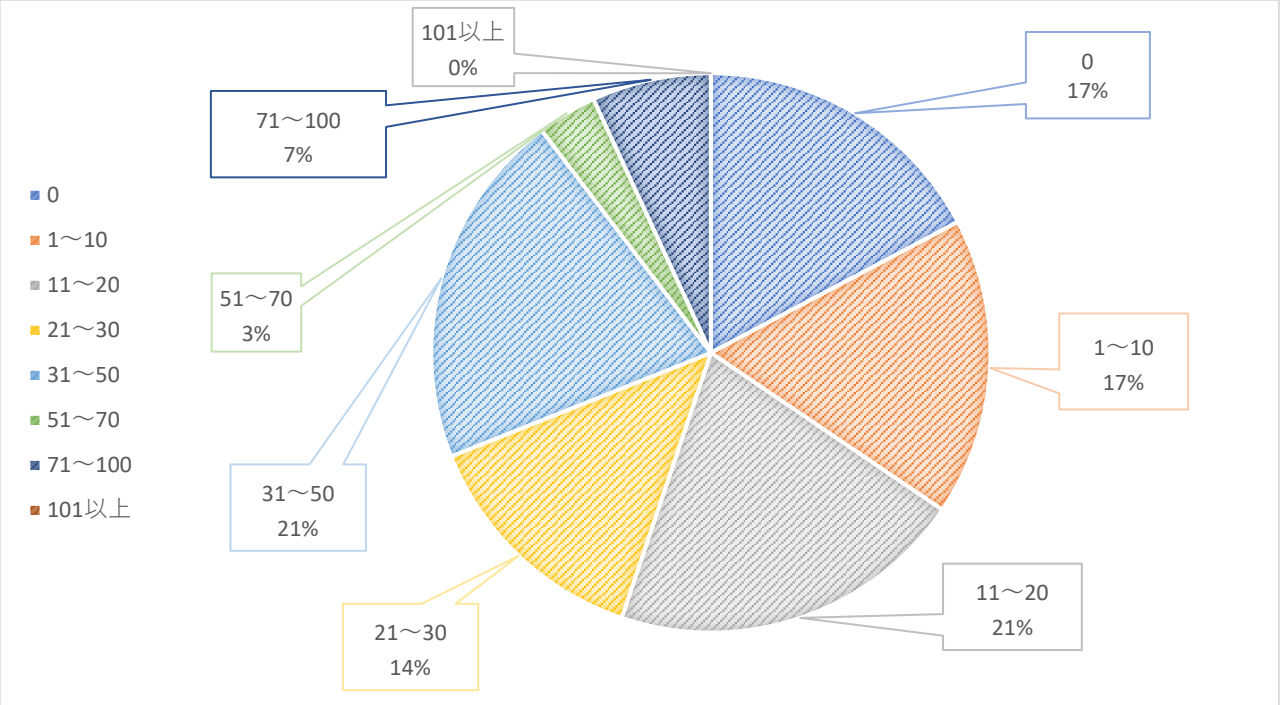
申請時(手術前)の多頭飼い現場の猫の総数	票数	%
1～10	2	7%
11～20	6	21%
21～30	10	34%
31～50	8	28%
51～70	1	3%
71～100	1	3%
101 以上	1	3%



手術前に 1 箇所の多頭飼い現場にいた猫の数の平均は 33 頭でした。

9. 手術後の猫の総数

手術実施後(報告時点)の多頭飼い現場の猫の総数	票数	%
0	5	17%
1～10	5	17%
11～20	6	21%
21～30	4	14%
31～50	6	21%
51～70	1	3%
71～100	2	7%
101 以上	0	0%



手術後に 1 箇所の多頭飼い現場に残った猫の数の平均は 25 頭でした。
手術後、猫が 0 頭となった現場が 5 件ありますが、里親が見つかり引き取られたか、ボランティアによる全頭保護となっています。

10. 不妊手術の状況

全頭不妊手術実施できましたか	票数	%
はい	19	66%
いいえ	10	34%

不妊手術を実施できなかったのは、子猫や体調不良の猫（実施後に譲渡ないし手術を実施予定）です。その他、捕獲ができなかった例や手術前に行方不明になってしまった例が報告されています。また、手術直前に当事者が同意を翻して手術を拒否し、申請のあった 22 頭全てが未手術となったケースが 1 件ありました。

11. 手術後の定期訪問

手術実施後　定期的に当事者を訪問していますか	票数	%
はい	15	52%
いいえ	14	48%

1 カ月～2 カ月に 1 回程度のペースで定期訪問が行われているケースが多くなっています。主に福祉課の職員の方やケースワーカーの方が訪問し、当事者の生活状況と併せて、猫の状況を確認しているという回答が見られました。

12. ピックアップコメント

【多頭飼育に陥るまでの経緯】

- 一人暮らしの寂しさから野良猫 3 匹を飼育し始め、室内外の出入りを自由にさせていたため、妊娠し、50 頭まで増えた。

- 市営住宅で 3 頭の猫を飼っていて、避妊去勢を怠り、90 頭に増加。悪臭と家賃の滞納もあり、市営住宅を退去させられ、実家へ猫と子供（成人）を移動。そこで子猫が生まれてしまい、100 頭以上に増えた。

- 何年前から飼い始めたのかは未確認ですが、常に当事者の身近に猫がいる環境でした。例年は子猫が生まれても育たなかったり、地域的に生まれた子猫は目が見えないうちに川に流したり土に埋めたりすることも行われていたので、自宅外で産み落とされた子はそのように、第三者によって命を絶たれた可能性があります。ところが昨年は生まれた子が育ち、成猫を 4 頭飼っているつもりが、気付いたら 14 頭にまで増えてしまったとのことでした。。

- 野良猫に餌付けしたことをきっかけに当事者宅に多数の猫が出入りするようになり、その猫たちが繁殖行為を繰り返し、2 年後には猫が 40頭以上住み着くようになってしまった。

- 拾った猫が外で妊娠して 3 頭を出産（うち、1 頭は死産）。その後、その猫がまた外で妊娠して出産。この時に生まれたオス、メスが成猫になって妊娠し、その後出産。このように妊娠と出産が繰り返され増えていった。世帯は金銭的に困窮しており、不妊手術の費用の捻出ができず、多頭飼育状態となった。

【手術後の対象場所や当事者（飼い主）の状況の変化】

- 生活支援相談センターとボランティアの協力により、家屋内を片づけ、現在は、家屋内の1室をフェンスで 2 つに分け、オスとメスを分けて完全室内飼いとした。当事者は、ボランティアを主体とする支援を受けて、家屋内の清掃等に努めるようになり、猫の適正飼育への理解を示し、完全室内飼いで、適正に飼育するようになった。

- 避妊去勢により性格が穏やかになり、喧嘩や周辺からの苦情がなくなった。

- 野良猫に責任もなく餌を与えることをやめたり、猫たちの生活環境の見直しをしたりと、当事者に意識の変化がみられます。

- 手術後、治療を終えた猫が当事者とともに生活しているが、不妊手術を受けた影響かあまり鳴き声をあげなくなり、マーキング行為もなくなったため生活環境が改善された。

【多頭飼育崩壊に対し、どのような予防的な取り組みが有効だと思いますか】

- 多頭飼育崩壊の状態に陥る前に、早期発見できることが大事であると考えます。今後も、行政と民間団体が協力連携できる体制づくりが必要であると思います。

- 避妊去勢手術の大切さや、生まれてすぐの子猫を川に流す・土に埋めることは犯罪だということを伝え、啓発すること。

- 当事者宅の周辺住民が関心を持ち、野良猫や多頭飼育に陥りそうな状況を適宜保健所に情報提供し、保健所から適正飼育指導を行ってもらう。周辺住民が当事者意識を持てるような取組みが大切であると考える。

- 県及び市で施術費用助成を行っていることを、今以上に広く周知できれば、飼い主の負担を少しでも軽くすることができ、多頭飼育崩壊の予防に繋がると思います。

【自己評価・反省点】

- 猫がこれ以上増えることのないよう不妊・去勢手術を実施することができたのは良かった点である。しかし、連絡は試み続けているものの、当事者と現時点で連絡がとれておらず、現在の猫の飼養状況の確認ができていない。多頭飼育者との連絡は苦慮する事例が多いが、引き続き適正な猫の飼養状況となるよう努めていきたい。

- 一人暮らし高齢者の多頭飼育だったため、このまま増え続けて、生活環境の悪化が予想されたが、手術することでこれ以上増えないようにすることができた。妊娠している雌猫が多く、春前に対応できれば良かった。当日は、親族の方やボランティアさんに協力いただき、2 日間で捕獲・手術と迅速に的確に行うことができた。飼い主が手術代すべてを負担することが難しかったため、どうぶつ基金に支援していただくことで実施することができた。

- 何もしなければ、無秩序に猫が増えていたところを食い止めることができた。猫問題だけでなく、当事者の生活に関わることにもなり、福祉部門との連携が必要となった。

- 全頭に不妊手術ができ、今後増えることが無いため非常に良かったです。ワクチンを接種したおかげで、風邪症状が改善した子もいます。これを機会に近隣住民も避妊去勢の必要性を少しは理解してもらえたと思います。

- 今回に関しては、動物愛護団体の全面的な協力が得られたためスムーズに実施できたが、運搬時間や運搬用ケージの準備等で動物愛護団体の負担が大きかったと思う。手術後の飼育環境を整えるための準備として、既製品のケージを購入する余裕はなく、また、頭数も多いため、2 畳分のケージを作成する必要があった。

- 十分な事前準備が行えない状況下で、対応がスタートしたため、協力ボランティアに大きな負荷がかかってしまいました。しかし、協力ボランティアの努力により、全頭の里親への譲渡が決定し、当事者の新しい生活につなげることができたことは、良かったと思います。

13. 総括

- 2018 年度の多頭飼育救済事業は 14 件であったのに対し、2019 年度は 29 件に倍増しました。多頭飼育崩壊の当事者は経済面や精神面で問題を抱えていることが多く、行政の介入が欠かせないとの考えから、2019 年度より行政からの申請を中心に取り組んでいます。行政の多頭飼育崩壊に対する関心も年々高まっており、行政による申請は全体の約 8 割を占める 23 件におよびました。多くの成功事例を積み重ねることが、今後、他の地域の行政が積極姿勢に転じることを後押しする好材料となるでしょう。

- 団体枠で実施した多頭飼育救済事業は 6 件でした。ただ、個人宅が対象となる多頭飼育崩壊に対しては、行政抜きでの介入は深刻なトラブルに繋がる危険があり、行政とのさらなる連携強化が望まれます。2019 年度の団体枠のアンケートでは「過去1年間、多頭飼育崩壊の相談を受けたことがありましたか」との質問に、30 団体中 17 団体が「はい」と回答していました。ボランティア団体に寄せられる多頭飼育崩壊の情報を行政と共有し、協力できる体制づくりが求められています。

- 「どうして多頭飼育状態を知りましたか」という質問では、昨年度と同様、近隣住民からの相談、ボランティアからの相談、本人からの相談、役所からの情報という4類型に回答が分かれました。近隣住民からの相談が 8 件、ボランティアからの相談が 11 件、本人からの相談が 5 件、役所からの情報が 5 件となっていることから、多頭飼育崩壊の情報がいち早くボランティアに届いていることが分かります。身近な相談役としてのボランティアと、スムーズな介入や諸制度を活用した側面支援を行うことができる行政がタッグを組むことで、より早く、より効果的に介入することができるでしょう。

- 手術前に多頭飼い現場にいた猫の数は、29 件合計で 912 頭でした。そのうち、不妊去勢手術の実施後に他者に保護・譲渡された猫の頭数は 155 頭。これは全体のわずか 17%です。ボランティア等が一時保護し里親募集を行っている例もありますが、死亡した猫を除き、手術後も約 8 割、742 頭が多頭飼育現場に残っています。この現状を考えれば、手術を行った現場で再び猫が増えることがないよう、継続的な支援や見守りを行う必要があるでしょう。しかし「手術実施後定期的に当事者を訪問していますか」との質問には、半数が「いいえ」と回答しています。多頭飼育救済は不妊手術をして終わりではありません。行政、地域住民、ボランティアなどによる救済後の支援体制をどう構築していくかが、今後の大きな課題です。

【参考：2019 年度に多頭飼育救済を申請し、事業を完了した行政および団体名（順不同）】

＜行政枠　23 件＞

宮城県利府町　生活安全課　環境協働班
群馬県富岡市　市民生活部環境課
神奈川県小田原市　環境保護課
埼玉県川越市　川越市保健所　食品・環境衛生課
東京都中央区　生活衛生課
茨城県かすみがうら市　生活環境課（2 件）
大阪府松原市　市民生活部環境予防課
長崎県長崎市　市民健康部動物管理センター
鹿児島県日置市　市民生活課（2 件）
茨城県日立市　社会福祉課（3 件）
京都府長岡京市　社会福祉課
北海道森町　住民生活課
埼玉県宮代町　町民生活課
埼玉県飯能市　環境緑水課
東京都調布市　環境部環境政策課
群馬県前橋市　衛生検査課
群馬県安中市　環境政策課
島根県出雲市　福祉推進課
茨城県小美玉市　環境課

＜団体枠　6 件＞

動物愛護の会アベニール（沖縄県国頭郡）
群馬わんにゃんネットワーク（群馬県太田市、群馬県高崎市）
琉球わんにゃんゆいまーる（沖縄県沖縄市）
FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク（兵庫県川西市）
心輪（滋賀県草津市）